

# みやのまえ 宮ノ前地区

平成11年から調査が開始され、13年度は0区・7区・8区で約430m<sup>2</sup>の調査が実施されました。調査の結果、江戸時代の初めから現在までの遺構面が4～5面存在し、各面の建物跡・敷地割りがよく残り、その変遷が明らかになりました。特に江戸時代初めと推定される遺構面では、金属の加工工房と推定される建物跡が検出されるという大きな成果がありました。

江戸時代初めの建物は、そのほとんどが柱穴を使う掘立柱建物跡であることや、建物に付属する便所や井戸などの施設の構造が分かりました。

江戸時代の生活道具類も大量に出土しました。陶磁器には供膳具・仏飯具、灯火具などが、木製品には下駄・箸・櫛・椀・建築材などが、金属製品にはキセル・銭貨・小柄・鉄製の道具などがあります。

また最下層で古代の遺跡の一部が確認され、須恵器が出土しました。



調査風景



道跡と溝跡(敷石が、道の部分)



石積みの井戸跡



宮ノ前地区遺構配置図(17C前半)



製錬炉跡(径20cmほどで厚さ5cmの炭が堆積しています)



出土遺物(分銅やキセル・コウガイの他に硯や紅皿、人形の灯明具などが出土しています)



調査区全景(2区)